

2006年3月30日

BMW Group Japan
正規ディーラーの補修塗装に水性塗料を日本初導入

ビー・エム・ダブリュー株式会社(本社:千葉市美浜区中瀬1-10-2、代表取締役:ヘスス・コルドバ)は、BMW及びMINIの自動車補修用塗料を、有機溶剤系から水性への変更を推進するため、BMW Group Japanの正規ディーラーであるセントラル自動車技研株式会社(本社:埼玉県川口市末広1丁目11番2号、代表取締役社長:田中徳尚、資本金:2千百万円、設立:昭和39年3月)を初の水性塗料導入パイロットディーラーとして発表しました。

セントラル自動車技研株式会社は埼玉県内にBMW(2輪/4輪)およびMINIの販売・サービス、認定中古車センターの拠点を15拠点展開しており、そのうち2つのサービスセンターにて自動車補修の板金・塗装を自社工場で実施。今回川口サービスセンターの補修塗装作業環境を水性に適応させるために設備投資・変更を実施すると共に、順次他拠点でも切り替えを行います。水性塗料のパイロット導入にあたり、水性補修塗料の共同開発及び日本市場対応のパートナーであるBASFコーティングスジャパン(株)の協力のもと作業者の研修を実施し、有機溶剤系塗料から水性塗料へ作業性を低下させることなく切り替えを実施しています。

自動車補修用塗料には有機溶剤(いわゆるシンナー)が使用され、その成分には人体や環境に悪影響を及ぼすVOC(揮発性有機化合物:Volatile Organic Compounds)が多く含まれます。日本においてもVOC規制=改正大気汚染防止法が今年4月1日に施行されますが、大規模塗装施設のみが規制対象とされ、ほとんどの自動車補修塗装工場は対象から外れます。しかし、ビー・エム・ダブリュー株式会社では、BMW Groupによる欧州における補修用水性塗料の導入実績をもとに、VOC排出量を90%削減できる水性ベースコート塗料を日本市場にも導入し、今後、日本の法規制が更に強化される時期を待たずに、ディーラー従業員および周辺環境への負荷削減を自主的に推進していきます。

BMW Groupでは世界のほぼ全部の工場で地域環境、地球環境、周辺住民および作業者への衛生環境の面から、従来の有機溶剤系塗料から水性塗料への切り替えを1990年代に実施済みで、日本においてもBMW新車整備センターでは補修用塗料は全色2002年に水性塗料に変更済みです。現在開発中の補修用水性クリア・コーティングに関しても、車両生産に於いてはクリア粉体塗装を既に使用しており、これは塗布の際に水も有機溶剤も必要とせず、廃液もなく化学処理も必要としません。また過剰な粉体塗料は回収され再利用されるため、100%の塗装効率が可能です。

BMW Group Japanでは、BMW Groupの企業戦略としてのサステナビリティ、すなわちリソースを効率的に利用し、環境や働く人への配慮を重視した、社会的責任ある活動をおこないながら、持続的な経済的成長を達成するために努力する、これらを日本でも展開していきます。アフターセールス部門では、補修用水性塗料導入を契機に、今後ドイツでは導入済みの、"Color System"という自社ブランドの補修塗料を導入し、アフターセールス・マーケティング活動、ディーラー収益向上活動を推進していきます。

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:
BMW Japan Corp. 広報室: 043-297-8303 (製品広報)